日本吃音・流暢性障害学会第11回大会　大会企画
大会企画　早口言語症治療の基礎知識と成人例への適用

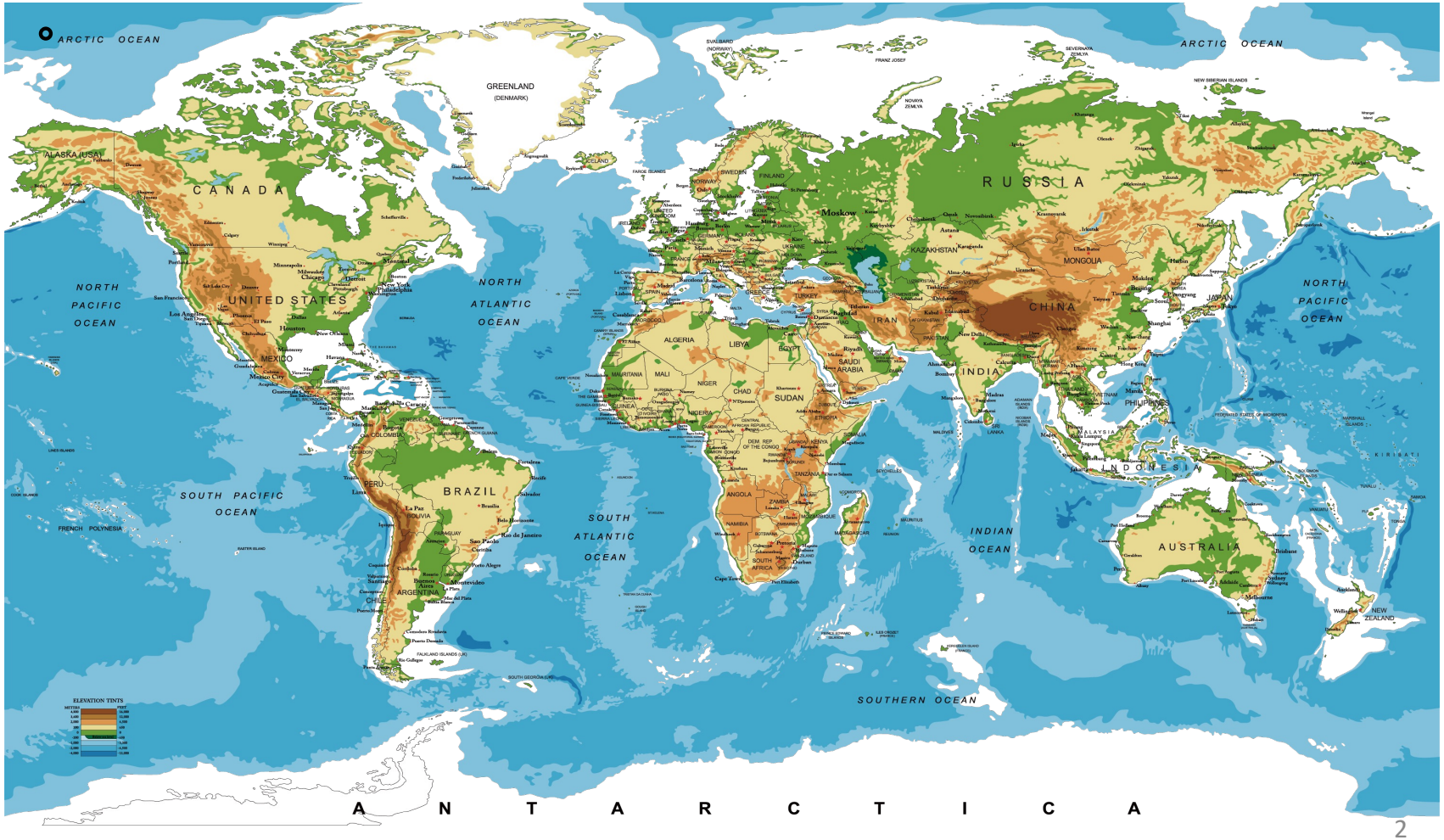
早口言語症（クラタリング）の基礎的理解

2023年10月22日　14:00～15:20

筑波大学人間系　宮本昌子
smymt@human.tsukuba.ac.jp

はじめに

早口言語症は東ヨーロッパを中心に広まり，のちにアメリカに上陸し，1960年代から知られるようになった　(Weiss, 1964)。



はじめに

現在、ICD-10，11で定義され，ICD-10の日本語訳は「早口言語症」である

1950～60年代：ヨーロッパの医者により盛んであった

研究がほとんどなくなった

1992年：「早口言語症」の著書(*Cluttering: A Clinical Perspective*(Myers & St. Louis，1993）が出版された

1996年：吃音のタイプⅡとの類似性を指摘（Preus, 1996）

1996年：Journal of Fluency Disorderで特集が組まれた

2007年：第１回クラタリング国際会議以降（学会設立）

現在の日本での問題点

特に背景疾患がないのに、話し方に困難があり困っている人がいる

相手に話が通じにくい・・・？
聞き返される・・・？
話をまとめられない？

彼らを評価すると、吃音、音声障害、構音障害、特異的言語障害、など、いくつかの障害に該当する可能性がある。早口言語症もその一つである。

本人らは「早口言語症」だとは気づかない

支援者も「早口言語症」への認識が少ない

海外でどう説明されているか？

- 早口言語症は吃音と同じような流暢性の障害であるが，吃音と同じではない
- 早口言語症には速すぎて不明瞭な発話がある（何を言っているか分からない）
- それとは対照的に吃音の場合は、吃音があるためにつまっていて分かりにくい場合を除き、発話内容は伝わるものである

「クラタリングって、なに？（リーフレット）」（宮本，飯村，深澤，平野，2021）から引用

Stuttering Foundation of Americaのリーフレットを翻訳（This material was written by Kenneth O. St. Louis, Ph.D., West Virginia University, and updated by Kathleen Scaler Scott, Ph.D., Misericordia University ）

吃音の症状と比較しながら、クラタリングの中核に迫ります。

吃音の中核症状

- ぼ、ぼ、ぼくの
  最初の音を繰り返すこと　（繰り返し：連発）
- ぼーくの
  最初の音を引き伸ばすこと（引き伸ばし：伸発）
- ・・・・（苦しそうな息）・・・ぼ、くの
  最初の音の構えをしてもなかなか声が出てこないこと
  （ブロック：難発）

早口言語症の中核症状

（St. Louis & Shulte, 2011）

早口言語症は，一般的な発話速度より速すぎる速さで話されたり，あるいは不規則な速度で話されている，流暢性の障害である。

これに加えて，以下の症状がみられる

1．過剰な正常範囲非流暢性
2．過剰な音節の崩壊，あるいは省略
3．異常なポーズ（話の間），音節の強勢，あるいは発話リズム

１．過剰な正常範囲非流暢性

正常範囲非流暢性とは，一般の人にもみられる非流暢性症状を示す

- 力み，緊張のない音・語・句の繰り返し
- 間投詞：「あの」「ええと」「その」など
  ：文脈上，必要のない語音が入ること
- 言い直し：発した語音を，一部表現を変更して反復すること
- 中止：語，句が未完結に終わること

早口言語症の場合、正常な話者にもみられる非流暢性の頻度が高い。

2．過剰な音節の崩壊，あるいは省略

音節の崩壊，省略は「多音節からなる語」で起きやすい

- 語での例：
  「おこのみやき」→「おこのやき」

- 文での例：
  ありがとうございました→ありとうざいました
  いかなかったです　→　いかったです　など

※しかし，音節の崩壊，省略は上記のように文字として表記できない場合が多い

音節の崩壊・省略の例

『クラタリング：特徴・診断・治療の最新知見（van Zaalen & Isabella, 2018)』P9では”articulation”が例になっている。

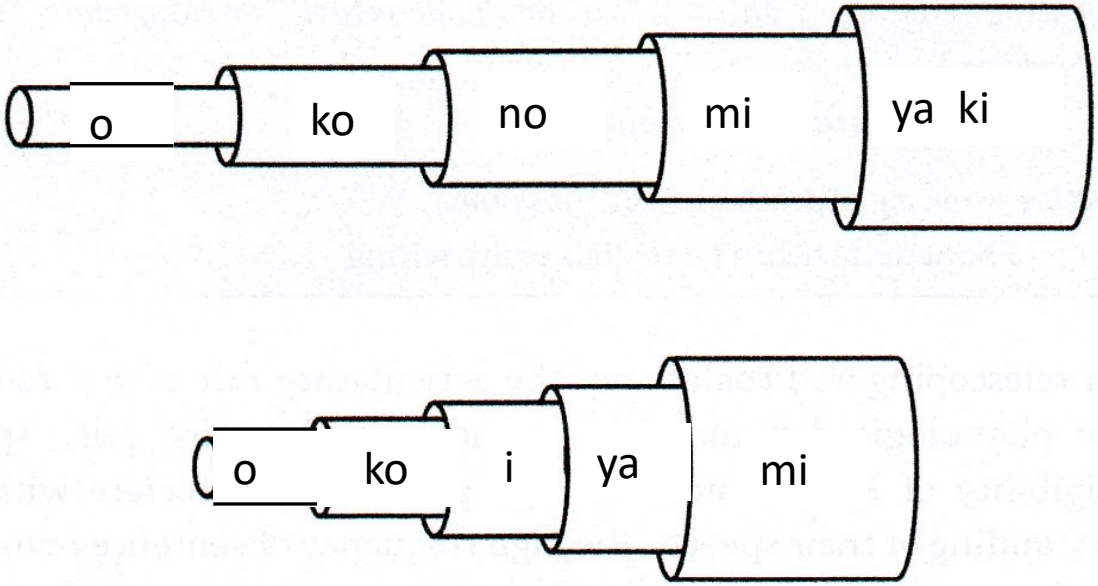


Figure 1.2: Example of Coalescence (see Dinger, Smit and Winkelman, 2008)

3．異常なポーズ（話の間），音節の強勢，あるいは発話リズム

一般の人が行う，意味上，適切な文節などの区切りでのポーズが行われない場合が多い

- 息が続く限り話し続け，息継ぎのタイミングが，意味上の区切りではないことがある
- ポーズをあまりとらずに話し続ける傾向がある
- 抑揚のない話し方をする傾向がある

早口言語症のある児童の発話例

交差点にさしかかるたびに，すべての信号が赤でした。

す　すべ　かえるときに
かえ　ふ　信号がすべて赤になっていました

その人はひどく落ち込みました。

女の人は　ど･･･どひ
ひどくがっかりしました

このような発話は、
「迷い発話(maze behavior)」
とも言います

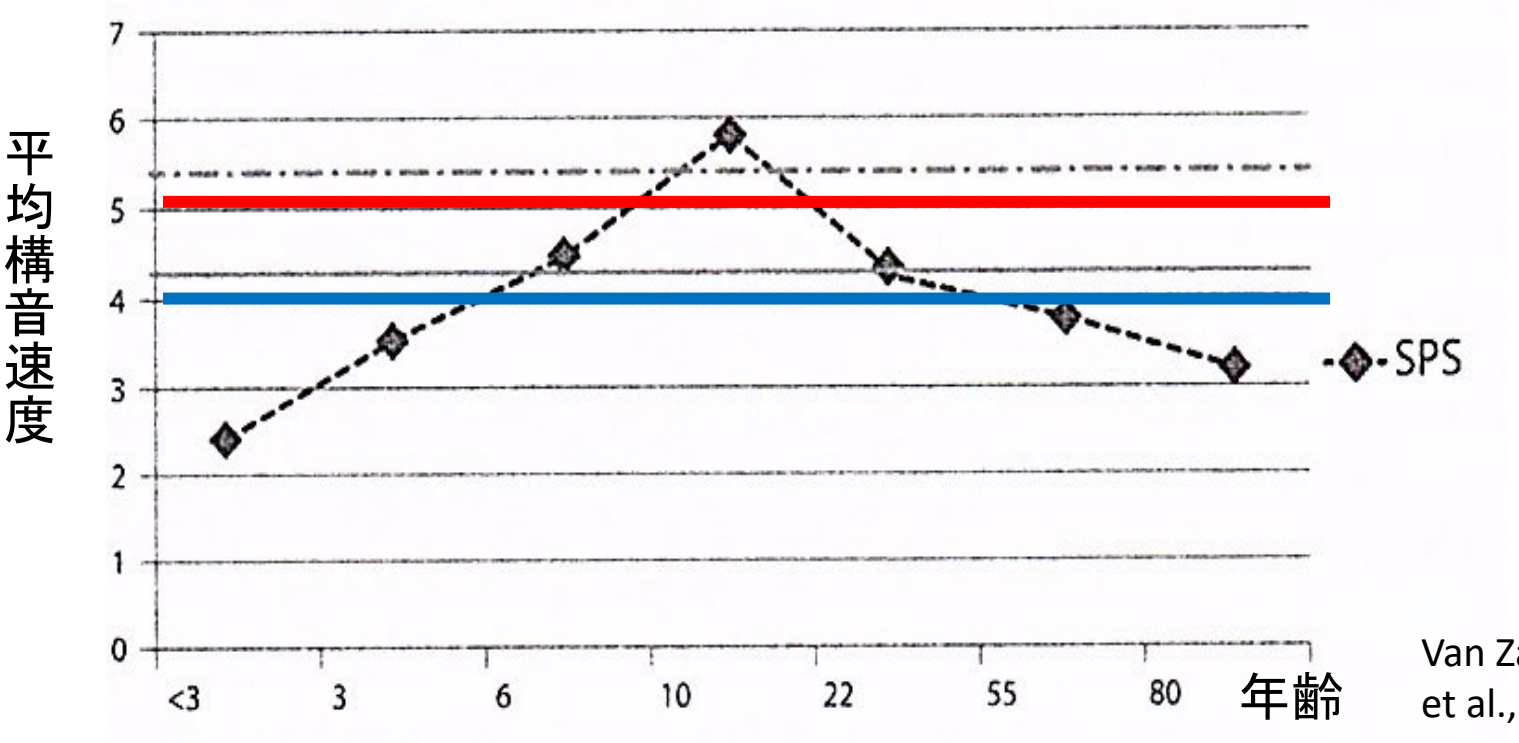
記憶した物語の再生：「財布の話」から

クラタリングのある人は，なぜそのような話し方をするのでしょうか？

発話速度の許容性

- 話す速度は，10歳を超えたところピークに達するとされる
- 失敗せずに話すことができる速度は，人それぞれである
  （＝発話速度の許容性）

Syllable per second(SPS) （音節/秒）



Van Zaalen et al., 2014

許容性を超えた速すぎる話し方がもたらす弊害

自分の許容性を超える

速すぎる話し方　かつ / または　不規則な話し方

その結果

1．過剰につまる，言い誤る，言いなおしをする，「あの」「えっと」などの間投詞が入る

2．調音結合や折りたたみが生じ，語構造が乱れる

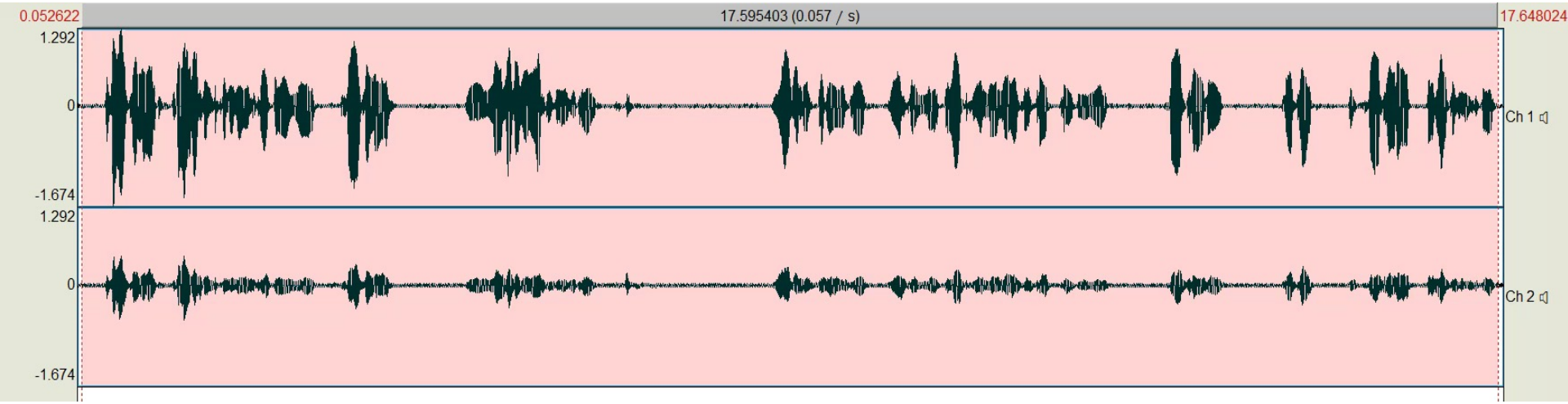
3．異常なポーズ（話の間），強勢，発話リズムが生じる

単語の一部が省略される

単語の一部が縮まる

クラタリング症状のある話し方

『桃太郎』の物語再生課題



かわから かわでせんたくものをしているのは（9.41モーラ/秒） かわから

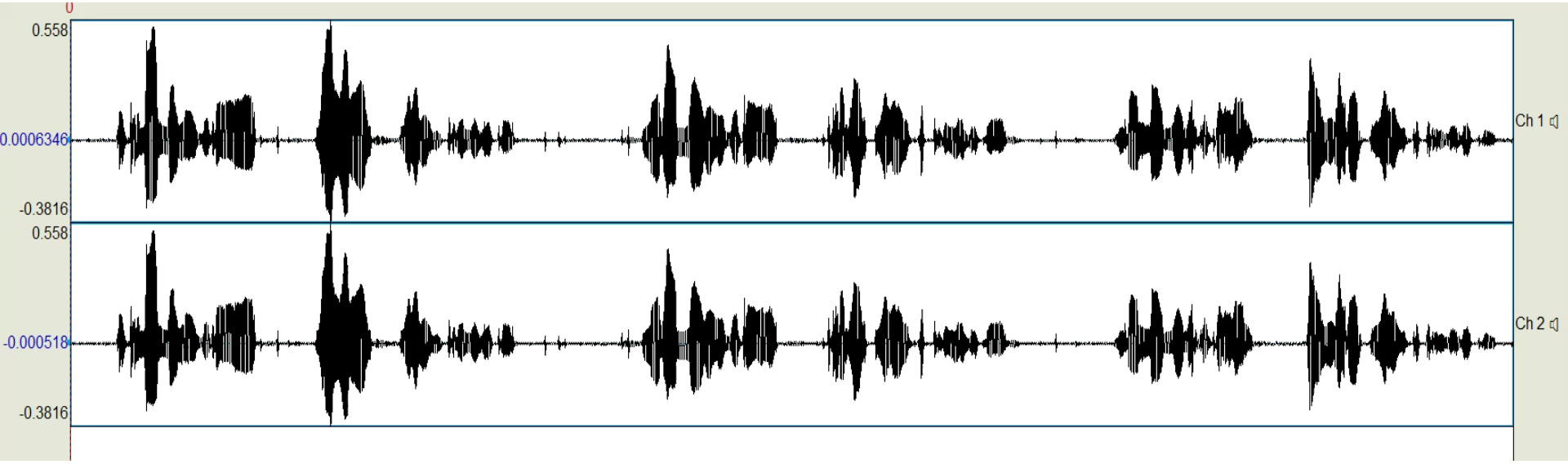
も，ももがながれてきました　　いえにもってかえると

じいさんが おおきいももだこと，といい　ほうちょうで　え，なか…

ほうちょうであけようとしました

発話速度を低下させた話し方

『三匹の子ぶた』の物語再生課題



いちばんめのぶたは　　わらで　いえを　つくりました

9モーラ÷1.38秒＝6.52モーラ/秒

にばんめのぶたは　　きでいえをつくりました

さんばんめのぶたは　　レンガでいえをつくりました

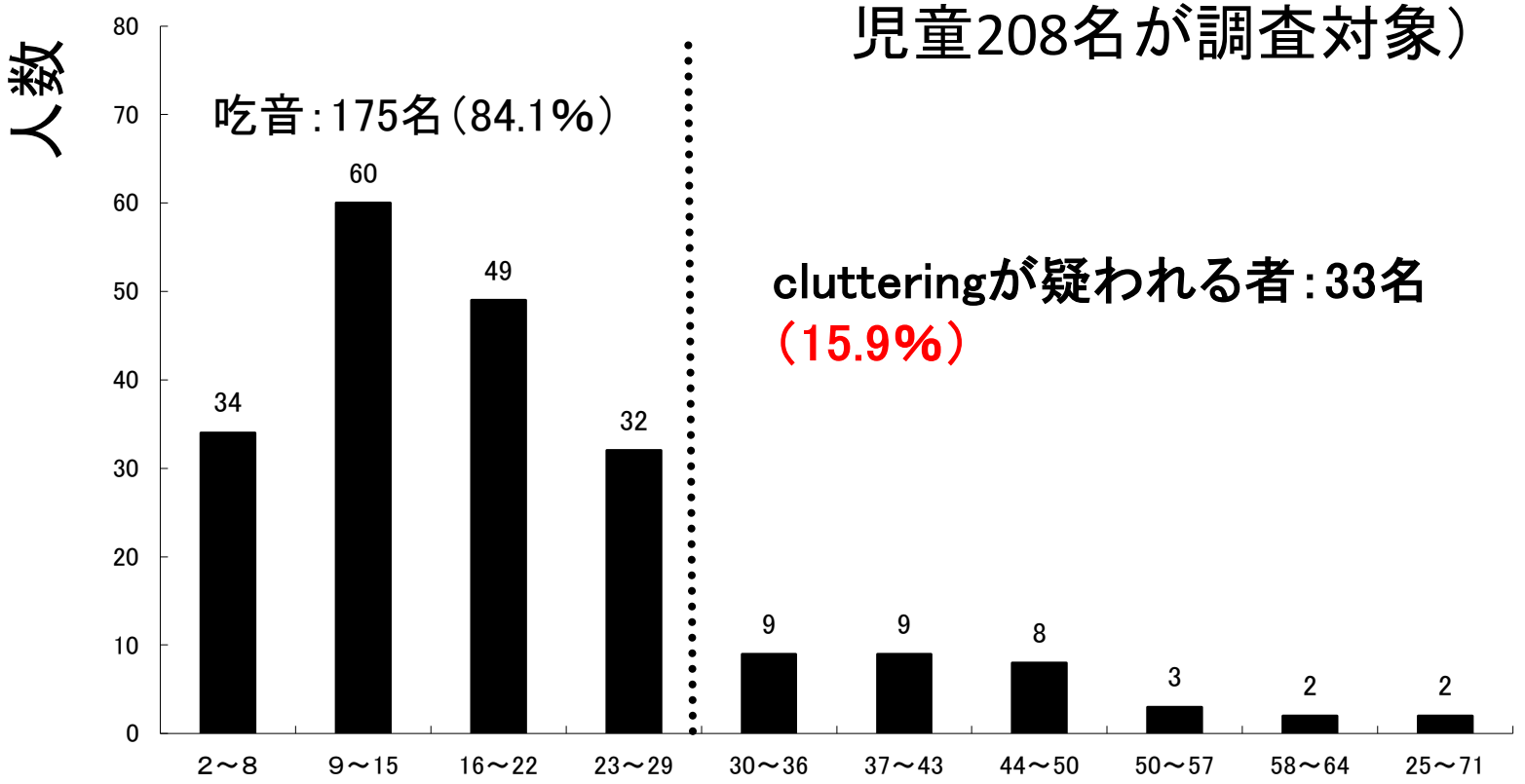
クラタリングの有病率

吃音のある者の１０～４３％は，クラタリング・スタタリングである可能性がある

有病率（クラタリング・スタタリング）	**対象**
14.9% (Miyamoto et al., 2006)	吃音ある児童
17.7% (Howell & Davis,2011)	流暢性障害のある思春期前のクライアント
43.0% (van Zaalen, et al., 2009)	流暢性障害のある成人のクライアント

クラタリングが疑われる児童の割合

（吃音を主訴として指導を受ける児童208名が調査対象）



JCPCver.1の得点分布 宮本（2011）

早口言語症には，発達障害にみられる症状が併存しやいこともわかっている。併存か？類似か？

クラタリングのその他の特徴

（中核症状ではないが同時に表れやすい特徴）

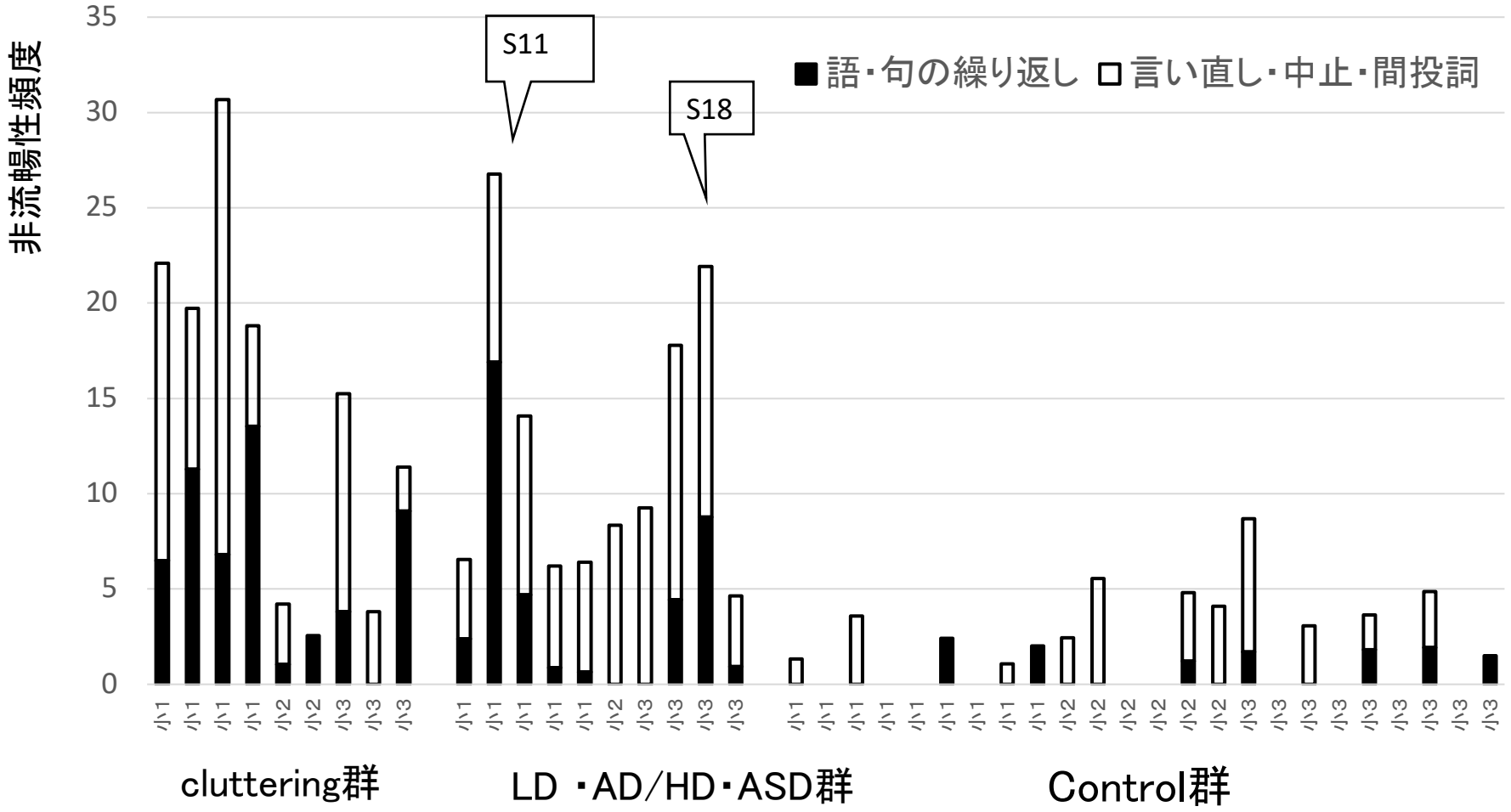
- 紛らわしい，まとまりのないことを発言する
- 自分の発話のたどたどしさや，早口すぎることについて自覚していない
- 「ゆっくり話して」「注意を向けて話して」と言われれば，一時的に症状が改善する
- 血縁の人の中に，吃音かクラタリングの人が数人いる
- クラタリングの症状に起因する社会性，または職業上の問題が生じている
- 学習障害がある
- 手書きの文字が乱雑である
- 注意散漫，多動である，あるいは集中力が続かない
- 聴覚による認知が苦手である
- 話をするときに，身体のもがきはほとんどない

Stuttering Foundation of Americaのリーフレットを翻訳した「クラタリングって、なに？（リーフレット）」（宮本，飯村，深澤，平野，2021）から引用

クラタリングと併存しやすい問題

- クラタリングは，限局性学習症，注意欠如・多動症等の発達障害がみられる者にもみられやすいことがわかっている。
- 日本の児童の場合，吃音のある児童よりもクラタリングの傾向がある児童の方が他の障害を併せ持つ割合は有意に高いことがわかっている（Miyamoto, 2019）。

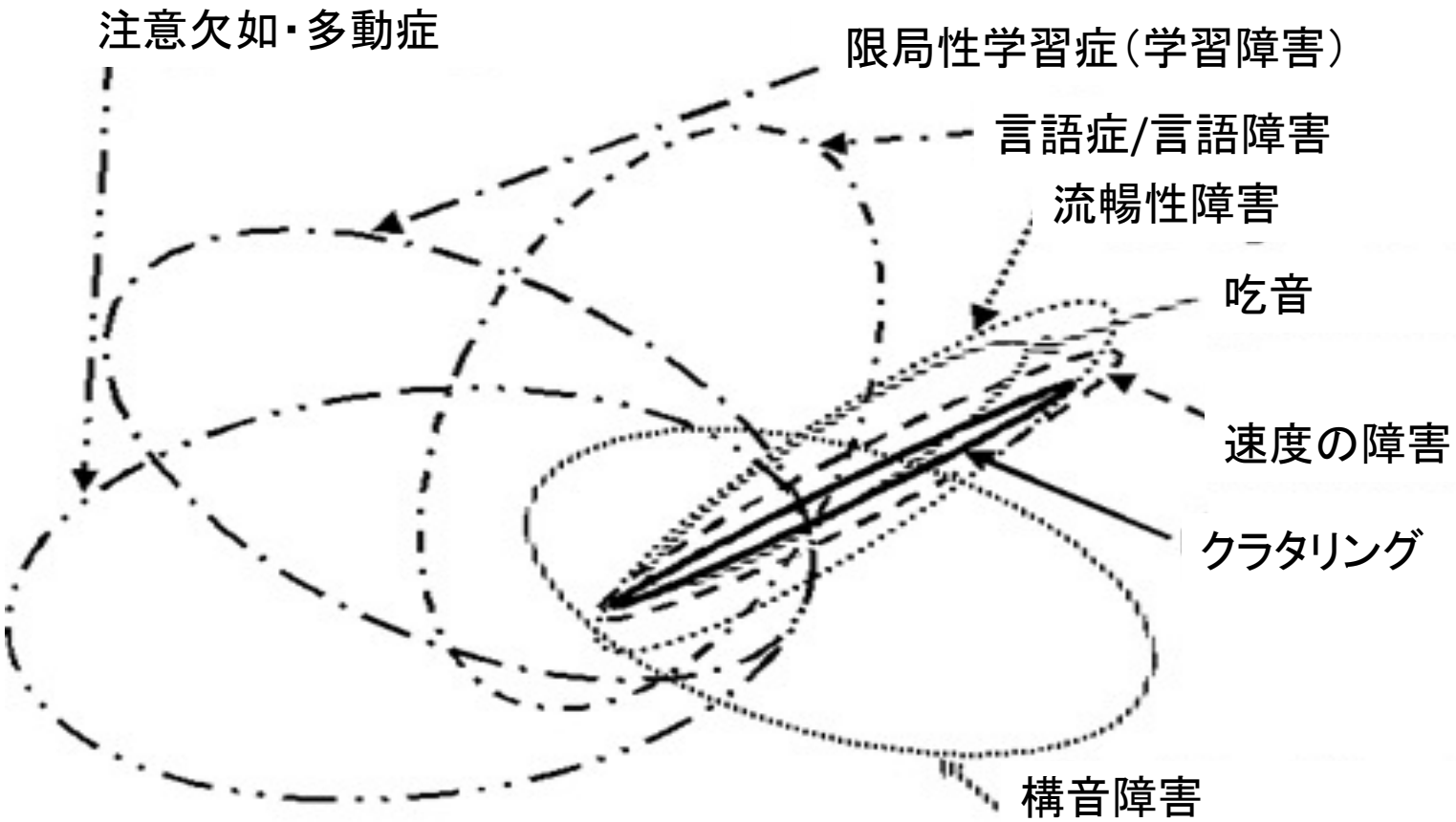
・吃音のある者に発達障害の症状がみられる場合は特に，クラタリングも疑ってみる必要がある。
・発達障害にみられる特徴（例：注意のスパンが短い等）にも同時に介入することで，相乗効果的に発話の状態が改善することが報告されている（Daly & Burnett, 1999）。



クラタリング・スタタリング群，LD ・AD/HD・ASD群，Control群の絵の説明課題における非流暢性頻度（正常範囲非流暢性）

（宮本，2018）

クラタリングと関係のある障害



本資料はSt.Louis氏より2005 年に提供された

主な文献

- Miyamoto, S. (2011) Assessment and intervention of Japanese children exhibiting possible cluttering. In Ward, D. & Scaler Scott, K. Eds. : *Cluttering: A Handbook of Research, Intervention and Education*. East Sussex: Psycjology Press, 198-210.
- 宮本昌子（2018)クラタリング・スタタリングを呈する児童の発話特徴：構音速度と非流暢性頻度の測定．音声言語医学，60(1), 30-42.
- 宮本昌子・小林宏明・酒井奈緒美・柘植雅義（2019）吃音に他の問題を重複する児童の実態．第45回コミュニケーション障害学会学術講演会.
- van Zaalen, Y. & Reichel, I. K. (2015) *Cluttering: Current Views on Its Nature, Diagnosis, and Treatment*. iUniverse, Bloomington, 森浩一・宮本昌子（監訳）（2018）クラタリング（早口言語症）：特徴・診断・治療の最新知見．学苑社，東京.